

事業名	学んで輝くひと・まち塾 ～生涯学習ボランティア発見講座～
事業の特徴	ボランティア活動支援センターと大学と連携した大学講座の開設（大学と連携したボランティア活動について学ぶ大学の公開講座の実施、大学の正規科目としての位置づけの付与、ボランティア活動支援センターとの連携）

実施機関名	東広島市教育委員会生涯学習課
連絡先	〒739-8601 広島県東広島市西条上市町7-42 TEL 082-420-0979 FAX 082-422-1610 URL http://www.city.higashihiroshima.hiroshima.jp/soshiki/57/
事業規模	市区町村
事業主体	教育委員会
事業のテーマ分野	まちづくり（大学との連携）

1 事業の概要

学んで輝くひと・まち塾「生涯学習ボランティア発見講座」は、広島国際大学心理科学部との連携により、全8回の講座で実施し、これからの社会を担う学生たちが社会に巣立ち、身近な地域社会において、ボランティア活動や交流を通じて地域貢献でき、社会への円滑な順応、自己実現や自己開発につながる学びとなることを目指している。また、学生のみならず、団塊の世代を始め、これからボランティア活動を始めようとする市民が、ボランティアについて学び、自分自身に合う活動を見つけること、さらには、ボランティアグループに参加し、個人ボランティアとして活躍できるように支援し、一人でも多くの市民がボランティア活動に参加する契機となることを目指している。

講座の開設に当たっては、学生たちに実践活動を重視したボランティア講座を提供したい大学側と、市内で活動するボランティアグループや実践者が日ごろの活動成果を広く市民に提供し、活用できる場を見出したいという教育委員会側のニーズと熱意が合致し、広島国際大学との連携事業として市民公開講座の開設に至った。

2 事業の趣旨、目的

本市では、市民一人一人の学びを支援するため、高等教育機関等と連携し、各種学習機会の充実を図っている。代表的なものとしては、本講座の他、近畿大学工学部で実施している「東広島学」講座や広島大学マスターズ市民向け講座などがある。

平成15年2月に策定した10年間の具体的な行動計画「東広島市生涯大学システムアクションプラン」（合併に伴い平成18年2月一部改訂）の施策の柱「（3）学びを生かして活躍しよう（学習成果の活用）」には、日ごろの学習活動やボランティアなどの実践活動で培った成果を、地域の社会的な場面で主体的に発揮できるための支援環境の充実を通して、豊かな地域社会の活性化を目指すことが掲げられている。

本講座のねらいの一つは、受講する学生や市民らが、ボランティアについて講義やフィールド体験を通して学び、自らの興味・関心に応じたものを発見すること、さらに、ボランティア活動に積極的に参加する機会を支援することで、豊かな地域社会の更なる活性化につなげることである。

一方で、常日ごろからボランティア活動を実践する市民に大学での講師を依頼し、活動歴やこれまで培ってきた学習成果を学生や市民らに直接教授する場として位置づけ、学習成果が活用できるように意図している。

3 事業の内容

（1）学習の内容

まず、全8回講座の導入部分として、「ボランティア全般ーボランティアとは？」と題する講義を広島国際大学心理科学部・コミュニケーション学科の久次弘子教授にご担当いただき、ボランティアの心構えとマナー、仲間づくりの基礎となるコミュニケーションの取り方などを学んでいく。

久次教授は、元広島ホームテレビアナウンサーという経歴を持ち、「まちづくり研究会」の学生メンバーらと共に県内の各種イベントにもボランティアとして参加・協力し、地域の活性化やまちづくりに参画する活動を実践されており、そのネットワークも広い。

オムニバス形式で実施する各講義では、常日ごろから市内で活動する各分野の実践者やボランティアグループメンバーらが講師を務め、講義内容の企画・立案から実施までを担当する。日ごろの実践活動で培った知識や技能などを成果にまとめ、一般市民へ直接発表すると共に、自分たちの活動を広く市民に発信する場としても活用できている。

各グループの個性ある活動方法や内容を学ぶと共に、フィールドワークでの体験学習も多く組み込み、日ごろ



この講座は東広島市教育委員会と広島国際大学で連携して実施する、ボランティアについて学び、体験して自分にあったボランティア活動を見つけていただく講座です。ボランティアに興味があるという方はぜひお申込みください。

月日	テーマ	内容
10/4 (土)	ボランティア全般	ボランティア参加のきっかけ ボランティアとボランティア活動実践センターについて
10/18 (土)	福祉障害者ボランティア	コミュニケーションについて 障害障害者支援方法を学ぶ
10/25 (土)	環境美化ボランティア	私たちの町をきれいにすることは
11/22 (土)	育児支援ボランティア	子ども向けレクリエーションのリーダー養成
11/29 (土)	福祉高齢者ボランティア	バリアフリーのまちづくりをデザインしよう！
12/6 (土)	読み聞かせボランティア	本が大好き！元気な広島っ子を育てよう！
12/20 (土)	学園研究支援ボランティア	黒瀬探検～身近な黒瀬地域をもっと知ろう～
1/10 (土)	国際文化交流ボランティア	私に出来るボランティア
まとめ		ボランティアについてとことん話し合いましょう

*各回とも土曜日 10時40分～16時10分まで1/10のみ13時00分～16時10分

- ◆場 所◆ 広島国際大学東広島キャンパス及び周辺施設
- ◆定 員◆ 先着20名
- ◆要 料◆ 500円（生涯大学バスポート登録料として）
- ◆申込方法◆ 電話にてお申込みください。
- ◆申込締切◆ 9月26日（金）
- ◆申 込 先◆ 東広島市教育委員会生涯学習課 TEL：082-420-0979

高校生・大学生の受講も大歓迎です

の実践を直接体験できるよう工夫してある。

第2回～第8回はオムニバス形式で実施するが、各講義を担当する講師は、ボランティア活動支援センターと連携して「ひがしひろしま生涯学習ボランティアグループガイド」に登録している各分野のボランティアグループに依頼している。グループガイドには、「自然保護・環境」「歴史・文化」「福祉」「子ども・青少年」「国際交流・国際協力」「地域活動」「まちづくり」「災害救助」の8分野にわたり、87団体が登録しており、「子ども・青少年」「まちづくり」「福祉」分野の登録団体が多く、各20グループ程度ある。

講師となったグループのメンバーらは、広島国際大学の非常勤講師として登録し、日ごろの実践活動の中で培った様々な学習成果をまとめ、自由な発想で企画・立案し、学生たちや市民に提供している。

なお、本講座は大学の正規科目（教員養成課程選択科目）にも位置づけられており、教職教養科目という観点からも講座プログラムは検討され、内容の精選を行っている。



講義（手話・要約筆記ボランティア）



フィールドワーク（環境・美化ボランティア）

（2）学習成果を活用したボランティア活動等の内容及び推進の方法

本講座の受講者には「生涯学習パスポート」の活用を勧めている。30分を0.5単位として受講証明（認証）のスタンプを押印する。学びの記録が目標単位数に達すれば、100単位で「奨励賞」、200単位で「マナビ賞」、300単位で「まナビすと賞」の対象となり、申請により運営協議会から表彰状と副賞が授与される。

いつ、どこで、何を、どんな方法で学び、どのような成果をあげたか、また、学習活動歴、資格・技能リスト、ボランティア・地域活動歴、自分の進歩についての自己評価、今後の抱負などを記録して活用できる。

さらに、学習メニューブックに掲載された学習情報等を基に自らの学習計画を立てる手がかりとし、更なる学びに



生涯学習パスポート

つなげるなど、学習の成果を幅広く活かせるよう支援するものである。

その他、講義においてボランティア活動支援センターの紹介を行い、その活動内容やセンターでの相談利用も勧める機会を設けるようにしている。講座の修了生の何人かは「ボランティアをしたい。」と支援センターを訪れ、相談する中で、いろいろなボランティアについてコーディネーターから説明を受け、ボランティアグループに所属し、活動している修了生もおり、受講後は他のボランティアグループとの連携に役立っている。



ボランティア活動支援センター

（3）推進体制等の仕組み

本市が有する豊富な学習資源として、大学を始め試験研究機関等の連携・協力で運営協議会を立ち上げ、「東広島市生涯大学システム」を平成15年7月から運用している。

このシステムは、“市全体を学びのキャンパスに”をキャッチフレーズに、行政のみならず、市民に対し学習支援サービスを提供する多様な機関・団体をネットワークで結び、だれもが、いつでも、どこでも、身近な学習から高度で専門的なものまで自発的に学べるよう学習機会を提供し、市民一人一人の自己実現につながる様々な能力開発や自分探しといった市民の生涯学習活動を支援するものである。

大学との連携では、そのモデルプログラムとなる講座を開発、身近な学習から高度で専門的な学習の支援サービスの提供、また、学んだことを生かすことのできる環境づくりを目指している。また、学ぶ機会の充実だけでなく、身近な地域での奉仕活動や行事への積極的な参画、ボランティアグループでの社会貢献など、市民の学びの成果を活かした活躍をも支援することで、生涯学習による豊かな地域づくりが実現できることを目指している。ボランティア活動支援センターは学習情報から活動支援まで、システムの中核を担っている。

4 成果と今後の取組

学生たちが自己開発や自己実現につながる学びを通じ、社会を担う次世代、地域貢献のマンパワーとして育成されたことや、また、学生のみならず、団塊の世代を始め、これからボランティア活動を始めようとする市民にとっても、ボランティアの実践者と直接交流でき、ボランティア活動に参加する契機として、意義のある講座となった。

さらに、ボランティア活動の実践者らが自ら講師として企画立案から実施までを担当することは、自分たちが日ごろの実践で培った活動成果を総括し、一般市民へ広く発信する場としても活用され、更なる学びへの意欲づけと活性化にもなり、相乗効果にもつながった。

ボランティア活動支援センターを訪れる講座の修了者もあり、ボランティアの相談件数も増加傾向にあるが、今後より充実した活動を目指すには、受講後の動向を把握する調査の必要性も考えられる。

講座内容や方法、対象者といった条件については有用性が認められたが、それ以外で、受講場所が市中心部から離れ、交通の便に課題があること、受講日時もフィールドワーク等の実地研修を考慮し、土曜日の集中講義（10時40分～16時10分）が連続することで、受講できる市民が限られてしまっていることから、今後、広報も含め、再検討していく必要があると考えている。

【執筆者の職・氏名】 東広島市教育委員会生涯学習部生涯学習課
専門員兼指導主事兼社会教育主事 村上 俊治